

研究社印刷工場に於ては先月の博文館の筆裁に
 関連しし職之の動搖を未多きことを恐るゆ博文館の
 賃金値上との賃金を増額したり然るもその増額
 率が博文館より少額なりしため何事かの方法にて
 賃金値上等の西女社を提出せんとしたるも工場主が博
 文館より許らざりし其の時期を待たず、あつしん最近趨
 区飯田町六ノ二主由地に工場新築を落成し本月四
 日工場一部(製紙部)の移轉を爲したる際、時期到
 来せりと職之側より移轉尉の労金の要求を提出
 したるが近因となり唯十一日より制紙部職之四三拾
 五名は同四五四脱業を爲したり。
 去る四日工場移轉作業に従事したる制紙部職

二四十七名は移轉尉の労金として一日然一日を(西女社
 する事となし五日工場に對して口頭を以て西女社
 工場主は之れを即座に認容したるも職之側中用東印
 刷労働組合の會より清水松一郎(東京義友
 子野)の送の之を工場主に三日の日給を(西女社)し
 たるも工場主は十日一般職之に對し賃銀増額の
 の指令を交附したる且職之五銭最高之拾銭)
 然るも右増額率の最高は職之の差餘りの甚だし
 に入らざるも唱ふる者出で清水松一郎(子野)の之を
 主となり更らる何事かの西女社を提出せんと職之一同
 を工場内へはちり協議を始りたるはより工場側は
 形勢を穩かたしあとして全日夜三五名を解雇したる